

芦屋廃寺の瓦塼

山本剛史



図 1



図 2



図 3

- 図 1 芦屋廃寺創建瓦
図 2 高句麗様式単弁蓮華文軒丸瓦
図 3 割り込み加工の塼

[参考文献]
・芦屋市教育委員会 1970『芦屋廃寺址』
芦屋市文化財調査報告 第7集
・芦屋市教育委員会 1987『芦屋廃寺B地点
遺跡発掘現地説明会ノート』
・網仲也 1994『摂津の渡来系氏族と古代寺
院』『渡来系氏族と古代寺院』帝塚山考古学
研究所
・芦屋市教育委員会 2006『平成 11・12 年度
国庫補助事業芦屋市内遺跡発掘調査―震
災復興に伴う埋蔵文化財緊急確認・本発掘
調査―実績報告書集』
・芦屋市立美術館 2015『遺跡と出土品
が語る芦屋の古代』
・中川二美 2015『塼積建物と塼の使用方
法』『Mie history』vol.22 三重歴史文化研究会

阪急芦屋川駅から始まる芦屋山手サンモ
ール商店街を抜けてすぐの場所に、1つの遺跡
の石碑が設置されています。古代寺院、芦屋
廃寺です。

芦屋廃寺は、白鳳時代（7世紀後半）に創
建された古代寺院です。廃寺とは発掘調査に
よって見つかった寺院のことをさします。芦屋
廃寺は文献記録などが無く、本来の寺院名が
明確ではないため、地域名をとって名付けら
れました。現在は、住宅が立ち並んでおり、
寺院が存在していた当時の景観は完全に失わ
れています。

芦屋市域は、かつての摂津国菟原郡（せつ
つのくにうばらぐん）内にありました。飛鳥時
代から奈良時代にかけて一郡に一寺造営され
た古代寺院を郡寺といいます。郡寺は郡名を
取って名付けられることがあり、菟原郡では
菟原寺が存在していたと考えられます。その菟
原寺が芦屋廃寺の可能性が考えられています。
実際、菟原郡内で他に古代寺院は見つかって
いません。しかし、芦屋廃寺が菟原寺だとす
る直接の資料ははまだ見つかっていないため、
断定することはできません。

芦屋廃寺の存在は 1904（明治 41）年に古
瓦が発見された時から知られていました。
1933（昭和 8）年に塔心礎が見つかりましたが、
その後の発掘調査では建物跡が確認されませ
んでした。1999（平成 11）年の発掘調査で
ついに伽藍の一部と推定される基壇が見つかり
ました。現在も発掘調査は行われていますが、
寺域の基準となる門跡や他の伽藍跡などが見
つかっておらず、まだ数多くの不明点を残して
います。

芦屋廃寺の出土瓦は飛鳥時代から安土桃山
時代頃のもの確認されています。出土した
瓦の中には法隆寺の瓦と同じ文様を持ったも
のがあります。いわゆる法隆寺式と呼ばれる複
弁蓮華文軒丸瓦と忍冬唐草文軒平瓦（図 1）
です。この法隆寺式軒瓦は、法隆寺が 670（天
智天皇 9）年に火災に遭い、その後に再建さ
れた西院伽藍で使われたものです。この瓦の
存在から、芦屋廃寺の創建時期は7世紀後半
の白鳳時代であることがわかります。芦屋廃
寺の法隆寺式軒瓦自体は奈良の長林寺で出土

した瓦当と似ています。法隆寺式軒瓦は渡来
系氏族寺院で多く出土しており、芦屋廃寺の
創建に渡来系氏族が関わっていると考えられ
ます（網 1994）。

芦屋廃寺には特徴的な瓦がいくつか出土し
ています。その一つが図2の単弁蓮華文軒丸
瓦です。一般的な蓮華文軒丸瓦と異なり、花
弁部分（蓮弁）の形状が花びらではなく、蕾
を彷彿とさせる楕円形となっています。この蓮
弁は凹状を呈しています。そのほか、弁間に2
つの珠点を配しています。特に中央部（中房）
寄りにも配置されている点は日本ではあまり類
例を見ません。この瓦が持つ特徴は高句麗（紀
元前 37 年頃～紀元後 668）の瓦に見られます。
高句麗の蓮蕾文軒丸瓦と特徴が似ていること
から、高句麗との関係が指摘できる資料となっ
ています。ただ、出土数が極めて少ないため、
他所からの搬入品とも考えられます。

芦屋廃寺では塼（せん）と呼ばれる古代の
レンガが数多く出土しています。主な使用方
法は、積み重ねて壁を形成する、敷き詰めて床
を形成するといったものです。瓦と同じ材料の
粘土と製造方法を用いるため、瓦の一種とし
ても扱われます。芦屋廃寺では L 字型、割り
込み加工が施されたもの（図 3）など様々な
形状の塼が出土しています。これらの塼は壇
上積基壇を形成する際に必要な葛石、羽目石、
束石、地覆石に似た形状をしています。芦屋
廃寺の塼は、壇上積基壇状の組み合わせをし
た須弥壇の基壇外装として使用されたと考えら
れています（中川 2015）。

芦屋廃寺にはほかにも様々な瓦が出土して
います。その中には出土数がそもそも少ない
ものや、他地域でも類例が少ない文様もあり
ます。それらの実態をつかんでいくことで、芦
屋廃寺の他地域との交流や存続に力を入れた
人物の影などが見えてくると考えられます。現
在も芦屋廃寺の調査研究は行われていますの
で、今後の調査研究の成果を楽しみにしてい
ただけると幸いです。

（やまもとたけし 芦屋市立美術館学芸員）